

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

「受験校決定に悩む生徒に、どのような声掛けや指導を行っていますか」 (センター試験後を中心に)

▶多面的な情報を用いて考えさせる

センター試験後の受験校変更については、本人の優先事項を押さえた上で、その年の志望動向の把握も怠らないように留意しています。また、単に過去の模試の判定だけではなく、2次試験の内容と本人の学力の相関をしっかりと見極めて助言するようにしています。

「大学・学部へのこだわり度(異なる学部でもその大学に行きたいか、同じ学部なら他の大学でもよいか、など)」「将来就きたい職種」「保護者の希望(学費の問題を含む)」の3つを、よく話し合ったうえで優先順位をつけて決めなさいとアドバイスしています。

知名度ばかりにこだわって受験校を変えたがらない生徒もいるが、合格できそうな大学にも教育・研究には差がない大学も多いので、志望校を変更する場合にはそれぞれに目を向けて考えるよう促している。

▶受験校変更を視野に入れ、事前準備を徹底する

まずは、第一志望へ向けて頑張るように指導をします。ただし、センター試験でうまく点数がとれなかった場合の志望校も調べさせ、用紙に記入させています。センター試験後は時間もないので、さまざまな状況を想定させ、調べさせます。

出願する国公立大学を変更する場合、自分がそのキャンパスにいることをイメージさせます。そこで4年間過ごせるか考えさせ、無理なら私立大学に進学するか、来年も受験するか聞きます。そんなことも見越して、併願校は早めに何パターンか考えさせておきます。

3年生の夏までに、志望校を第1併願(挑戦)、第2併願(実力相応)、第3併願(安全)として考えておく。センター試験の結果が出た後に慌てないように、12月の三者面談では〇〇点以上ならば第1併願、××点以下ならば第3併願というように生徒・保護者ともに覚悟を決め、あとは受験勉強に専念できるように指導している。

▶最後まで受験への意欲を保つよう指導する

低学年の頃から、学びたい内容を中心に志望校を考えさせており、センター試験後に出願校を変える場合も同様である。ボーダーラインを見て合格可能性が高い大学に出願しても、勉強のモチベーションがあがらないと、国公立大学の前期日程であっても受験しない生徒もいる。大学受験は合格することはもちろんであるが、最後までやり遂げることが大切であると考えているので、センター試験後に大幅変更する場合は、限られた時間でできるだけ生徒が納得できるような大学を選ぶことができるようにアドバイスする。

とにかく諦めず、最後まで粘り強く取り組むことを勧めます。併願校にも合格できない生徒は、本来の志望を曲げて、ハードルを自ら低くしてしまいがちなので、そうならないように時間をかけて指導しています。

現役生の場合は、センター試験から2次試験までに学力が大きく伸びるため、受験する国公立大学を安易に変えないように指導している。また、2月に受験する私立大学を絞って余裕のあるスケジュールを組み、第一志望校の受験までに力を保てるように促している。

▶第一志望校の受験にこだわる

第一志望を決めてから、条件を変えて併願校を選ぶ。できるだけ後悔しないよう、受験したい大学は受験させることにしています。期待値と同様に、「満足度×合格可能性」の総和を最大にすることを考えています。

浪人してもいいなら、「初志貫徹」を勧めます。本来は、1年や2年の浪人生活を経ても、「入りたい大学」に入ることが望ましいと考えます。人生には妥協が必要なときもありますが、大学入試では妥協をせずに勉強できるよう、声掛けをしています。